

6月号



吾孺二中 ニュースレター

A to Z

墨田区立吾孺第二中学校

令和8年6月5日

運動会の成功を支えた『聴く力』

校長 佐藤 順一

先日の運動会は、天候にも恵まれ、生徒一人一人が持てる力を十分に発揮し、笑顔あふれる素晴らしい行事となりました。迫力と爽やかさに満ちた各競技、実行委員や係生徒が全体を動かす運営の工夫、華やかさを演出するクラス代表による応援旗の制作、そして仲間を応援し合う絆の深さ——本校生徒の多様で生き生きとした姿を随所に感じることができました。また、PTA 本部役員、専門部の皆様をはじめ、日頃より温かく見守ってくださる地域の皆様、ご家庭で生徒の頑張りを支えてくださっている保護者の皆様には、本行事の実施にあたり多大なるご協力を賜りました。関係するすべての皆様に、改めて心より感謝申し上げます。

さて、この運動会の成功の陰には、本校教職員の指導や支援があったことは言うまでもありません。その中で、私たちが最も大切にしていることのひとつに、「人の話を聴くこと」があります。授業においても行事においても、先生や仲間の話を理解することなしに、学びは成立しません。しかし、私たちは単に「聞く」のではなく、「聴く」ことのできる生徒の育成を目指してきました。「聞く」という字は耳で音をとらえることを意味しますが、「聴く」という字には、耳に加えて目や心の働きが含まれています。すなわち、話す人の表情や様子を目で見て、その思いや気持ちを心で受け止めることが「聴く」ということです。例えば、相手の目を見てうなずきながら話を聴く人と、ただ聞き流している人とは、理解の深さはもとより、人とのつながりにも大きな違いが生まれます。人を大切にする姿勢は、まさにこの「聴く」態度に表れるものです。今回の運動会が成功を収めた理由の一つも、この「聴く」姿勢にあると考えています。生徒の皆さんが先生の話をしっかり聴き、仲間同士で声を掛け合い、互いの意見に耳を傾けながら準備や練習に取り組んできた成果です。また、保護者や地域の皆様からの励ましや支えにも、真摯に「聴く」姿勢で応えてきたからこそ、あのような一体感が生まれたのではないのでしょうか。

近年は ICT の発達により、さまざまな情報を容易に得ることができ、学びの在り方も大きく変化しています。これは大変便利であり、今後の教育に不可欠なものです。しかしながら、どれほど時代が進んでも、人と人との直接的な関わりの中で育まれる力の重要性は変わりません。その中心にあるのが、相手の思いを受け止める「聴く」力であると私は考えています。そして何より、「聴く」ことができる人は、周囲から信頼され、よりよい人間関係を築くことができます。これからも本校では、「耳」と「目」と「心」を使って人の話を「聴く」大切さを、さまざまな教育活動を通して育てまいります。その積み重ねが、生徒一人一人が仲間のために何ができるかを考え、自らの課題に向き合いながら、支え合う中で、一人では超えられなかった壁を乗り越えていくことにつながると考えています。(6月2日朝礼より)

☆修学旅行（3年生）

5月18日(月)～20日(水)の3日間、修学旅行で奈良県・京都府に行きました。事前に学習したことを実際に見学し、歴史ある建造物の迫力や繊細さに驚きと感動を覚えました。たくさんの学びと楽しい思い出が残る充実した修学旅行になりました。



☆運動会

5月30日（土）、スローガン「全力開花」のもと運動会を開催しました。保護者・地域の方と多くの方々が応援に来てくださいました。開催にあたり、八広小学校、八広あずま町会から TENT を借りしました。ありがとうございました。また、生徒たちの一生懸命取り組む姿に、感動したという感想も多くいただきました。生徒たちは、運動会を通して、また一つ大きく成長することができました。

